

金刀比羅宮

金刀比羅宮は、親しみをこめて“こんぴらさん”と呼ばれています。当宮は海の守り神であり、その他にも、薬・医療・商売などの御利益もあります。

神道は多神教であり、古代日本神話にルーツを持ち、自然への愛、家族の大切さを説いています。

江戸時代(1603～1867年)、社寺参詣が庶民に許可された唯一の旅だった頃、人々は“こんぴらさんへの参拝”を夢見ていました。今日でも日本全国から“こんぴらさん”を目指して、多くのご参拝をいただいております。

当宮は、香川県琴平町の象頭山(象に似た形の山)の東斜面の高い位置にあり、785段の石段を登って御本宮に至ります。

その参道途中には、色々な神様をお祀りした小さな神社が多数あります。

参道を半分ほど登ったところの小さな広場には神馬がいます。そこから30段ほど登り、突き当たりを左に進むと御本宮方面です。

突き当たり右手には大きな門があります。その奥には、国指定重要文化財の表書院があり、内部は美術館になっています。

表書院には美しい庭や池のほか、重要文化財に指定された、江戸時代の画家 円山応挙の障壁画などの芸術品を所蔵しています。

重要文化財 奥書院(非公開)では、伊藤若冲の障壁画も所蔵しています。



象頭山



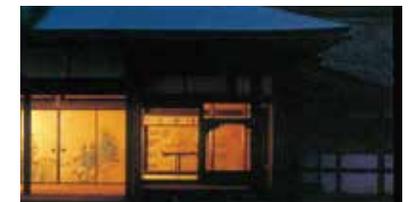
重要文化財 表書院



円山応挙筆 水呑の虎



表参道



重要文化財 奥書院(非公開)



伊藤若冲筆 百花の図(非公開)



重要文化財 御本宮

御本宮への経路は、表書院を出て少し進んで右に曲がりますが、曲がり角左側には“神椿”というカフェ・レストランがあります。旅の疲れを癒すのにちょうど良いのではないのでしょうか。

神椿のある場所には、以前は、山本弥三郎(1797年)寄贈の茶屋がありましたが、こちらを移動して、レストランを設けました。

神椿の壁は、九州有田 深川製磁の“深川ブルー”のタイルで飾られています。

神椿を出てしばらく石段を登ると、四国最大級の文化財建造物 重要文化財 旭社が見えてきます。

旭社から御本宮に至るルートは一方通行になっています。旭社から右手奥に見える賢木門を過ぎると、道なりに角を曲がったところに手水舎が見えてきます。

神様にお参りする前に手や口を清め、御本宮までの最後の難関 御前四段坂133段を登りましょう。

令和6年に国の重要文化財に指定された御本宮は、とても素晴らしく印象的な建物です。33年に一度、檜皮のお屋根の葺き替えを行っています。

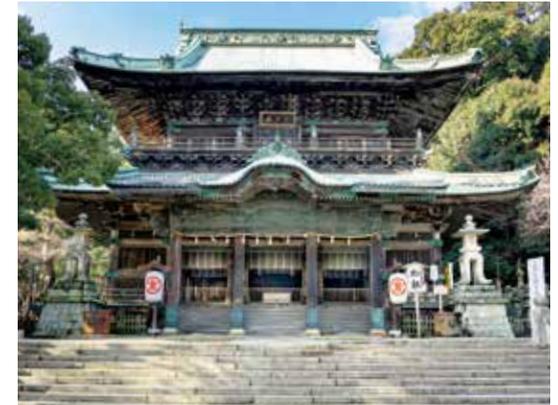
拝殿の格天井は、石川県・輪島の漆職たちによる桜の木地蒔絵で、装飾されています。

御本宮北側展望台からは、讃岐平野・瀬戸内海が見渡せ、正面には美しい形の讃岐富士(飯野山)が見られます。

御本宮の斜め向かいには、御札授与所があります。御神札やお守り、御朱印などはこちらでお受けください。



神椿



重要文化財 旭社



御本宮からの景色



重要文化財 十一面観音立像



緑黛殿



宝物館



奥社（嚴魂神社）



春



夏



秋



冬

御本宮から583段登ったところに奥社（嚴魂神社）が鎮座し、御本宮の守り神が祀られています。
山側を見ると、天狗の面が2面掛けられています。鼻高天狗は奥社の神様を表し、烏天狗は旅の安全を守ります。

金刀比羅宮では、日本の文化に基づき、季節ごとに数々の祭典や行事を執り行っています。
特に初詣には、多くの人々が御本宮にお参りされ、大変賑わいます。

下山の際、高橋由一館から左に折れると、石段の無い裏参道があり、季節によって新緑や紅葉を楽しむことができます。

1年で最大のお祭りは10月9～11日の例大祭です。
10月10日の夜には、神様はお神輿に乗って行列を組んで御旅所へ降りられます。
その時には、宮司以下神職、巫女、伶人、舞人、関係者がお供します。11日の真夜中には、御本宮にお還りになられます。

蹴鞠は、神職たちが色とりどりの装束を着け、表書院前の鞠庭で行います。
鞠庭には「桜・柳・楓・松」の4本の木が植えられ、二股に分かれたところに神様が座って蹴鞠の様子をご覧になられます。

現在、蹴鞠は京都と金刀比羅宮にしか遺っていません。
その他、4月10日の桜花祭、11月10日の紅葉祭も有名です。
年間を通して、さまざまな祭典・行事を執り行う金刀比羅宮に、是非ともまたご参拝ください。



高橋由一館



高橋由一筆 豆腐

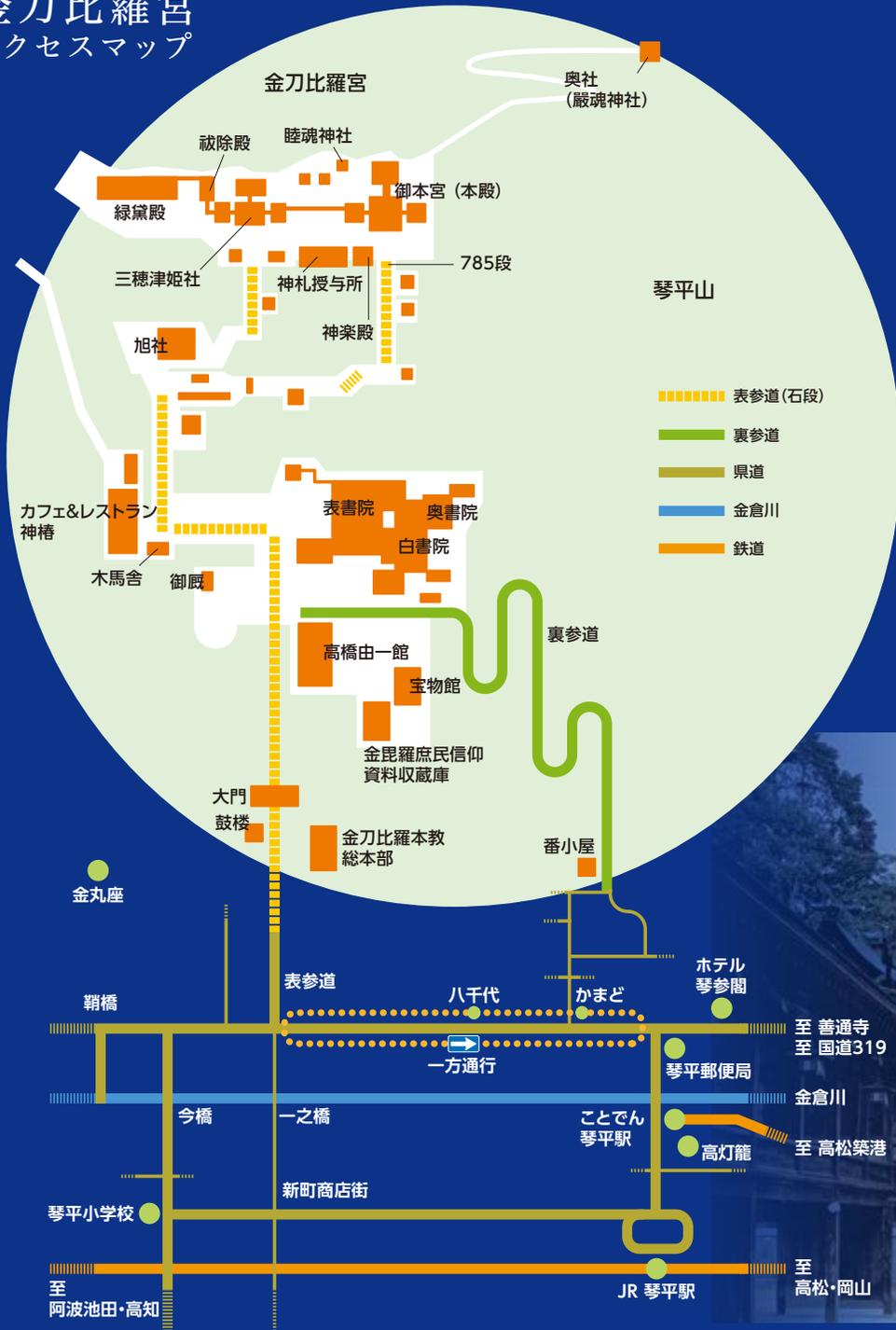


例大祭（御神輿渡御）



蹴鞠

金刀比羅宮 アクセスマップ



金刀比羅宮

〒766-8501
香川県仲多度郡琴平町892-1
0877-75-2121 (代表)
www.konpira.or.jp



トップの絵は、“讃岐院眷属をして為朝をすくふ図”です。
江戸時代後期の浮世絵師、歌川国芳の作品です。



こんびら狗



御本宮広前と御神木